



## 竹あかりが教えてくれたこと

西予市地域おこし協力隊 シーバース 玲名



地域おこし協力隊として着任して、10月で3年目になります。わたしのミッションは「復興支援」。2018年7月に西日本豪雨により大きな被害のあった西予市野村町の商店街を中心に、多様な活動を行ってきました。主に、野村町に関わる人を増やすこと、野村町にお金が落ちるようにすることを軸に活動しています。空き家を活用した写真展示会「朝霧寫真館」、商店街を子供たちで練り歩く「のむらハロウィン」。そしてわたしのことを知ってくれている方は、「ゲストハウス」、「竹あかり」のどちらかのキーワードで知ってくれている方が多いかもしれません。

地域PRを目的とした、「えひめの竹あかり」

今回の舞たうんのテーマが森林資源活用ということで、代表として活動させて

いただいている「えひめの竹あかり」の取組みとその想いについて紹介します。皆さんは「竹あかり」をご存知でしょうか？竹に穴をあけ、光を灯したもので、竹あかり、竹灯籠、竹ぼんぼり：色々と呼び名があるそうです。竹あかりと出会ったのは2018年に豪雨災害支援をしていた時でした。その時は特に気に留めていなかったのですが、協力隊に着任してすぐ、当時の同じ地域の協力隊だった先輩から「全国規模の竹あかりのイベント（みんなの想火）に、愛媛県の代表として参加しないか」と声をかけられます。不安な気持ちもありましたが、全国に向けて野村町を知ってもらえる機会を作れるなら、と思い参加をすることにしました。

放置された竹林たち

地域PRのつもりで始めた竹あかり事業ですが、竹に関わる時間が増えるにつれ気付くことがあります。放置された竹林の存在感がとんでもないのです。皆

さんも、もし山をぼーっと眺める時間があれば見てみてほしいのですが、家の裏など身近な斜面には竹が生い茂っているところが非常に多い。少し調べてみるとその理由はシンプルで、竹はもともと人の生活のための資源として用いられていたため、竹林は人里に身近なところにあるということでした。

竹は古くから人々にとっては身近な資源として活用されてきました。例えば、家の土壁に建築資材として、作物の収穫に用いる背負いかごや腰かごなどの日用品として、そしてタケノコは食用としてなど、多岐にわたっていました。しかし

近年竹を使った製品は少なく、タケノコも輸入が主流のため竹林は放置されています。



試しに竹コップを作ってみました